

令和5年度 第3回 広沢小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年10月18日（水）13時00分から15時30分
- 2 開催場所 広沢小学校 開放教室
- 3 出席委員 杉浦 友治 山田 谷一 川上 玲子
橋本 憲幸 宮本 慶子 平野 圭吾
橋本かずよ 佐々木 知成 加藤 いずみ
- 4 欠席委員 なし
- 5 学校コーディネーター 矢野 貴恵
- 6 オブザーバー 西部協働センター所長 石田 博基
- 7 学校 澤田 強志（校長）、谷野 幸代（教頭）、鈴木 俊彰（主幹）
石川 由美（CS ディレクター）

8 傍聴者 なし

9 協議事項

- (1) 議長の選出について
- (2) 子供に付けたい力と学習支援について
- (3) 学校支援活動（クラブ活動）について

10 会議録作成者 CSディレクター 石川 由美

11 会議記録

司会の谷野から、委員総数9人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、杉浦会長から加藤委員を議長に推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(2) 子供に付けたい力と学習支援について

事前に校長より授業づくりにおける本年度の重点的な取組の説明があった。本年度は、「かかわる力」の育成に重点を置いており、その視点で子供たちの様子を参観し、御意見をいただきたいという話があった。

授業参観後、参観していただいた学級の子供たちの良い表れを励ましの言葉として、付箋紙に書いていただき、それを基に御意見を出し、類型化した。

はばたき1・2・3

- ・子供たちは、先生の話を生懸命聞いて集中して考え、意見を書いていた。頑張っていてすばらしい。
- ・子供たちが、黒板に付箋を貼るとき、譲り合って貼っていた。見ていてうれしかった。
- ・子供たちは、友達表情をよく見ていた。
- ・先生の「～してね」に対して素早く行動できていた。
- ・コミュニケーションが取れる机の配置がよい。

○質問 保護者が同席していたのはなぜか。

→いつもの光景である。担任が意図的に保護者を学級経営に巻き込み、教師、保護者、子供みんな人間関係づくりを行っている。（校長）

5年4組

- ・全員で口に出してめあてを言い、確認していて良い。
- ・子供たちは、発表をしている子の発言にしっかり耳を傾けていて意欲的に学習し

ていた。

- ・一人一人の目が生き生きとしていて、めあてに向かってどの子も真剣に考え意見を言っていて素晴らしい。聞くことにも集中していて素晴らしいグループ活動である。
 - ・小学生から KJ 法を使用し、様々な意見を認め合う授業に驚いた。
 - ・「納得」という言葉に対して「みんながうんうんってうなずく感じ」という表現を使っていた。この表現をクラスみんなが納得しているのが伝わってきた。
 - ・周りの様子に気を配って隣の子が困っているとき、そっと助けていました。素晴らしい。
 - ・だんだん声が大きくなって、皆で声を合わせて言うてからさらに良くなったと思う。
- 本日の中日新聞にこんな記事が載っていた。低学年に対してタブレットは荷が重いのではないか。子供たちにタブレットを配れば勉強ができるようになるわけではない。大人でも十分な訓練が必要なのに、子供に強要はできない。そして、その落とし穴については次回記載するとのこと。選択することは難しいと思うが、タブレットを手にして楽しいと思う子もいればそうでない子もいるはず。(杉浦会長)
- 会社でも ICT を活用している時代、子供の情報活用能力の育成は不可欠である。(佐々木委員)
- 異なる意見に質問してみるとというのが黒板にあった。自分と全く違う意見などにこれってどういうことと聞くこと、その一步がすごく大事。お互いを理解、納得し合うというのが授業のめあてで、すごくいいと思った。(加藤委員)

3年3組

- ・発酵食品は身近な物で、子供たちに考えさせることのできる学習内容だった。
 - ・パワーポイントが始まってから熱心に授業を受けていて良かった。
 - ・目の前で実際に実演していて分かりやすい。
 - ・一つ一つの説明を画面と先生の話とを照らし合わせて子供たちに授業に集中させる工夫が非常に良い。
 - ・興味を持って講師の先生の話聞いていた。楽しそうな雰囲気だったが、大事なことを言いそうだと気づくとさっと静かになることができた。話の流れを分かっているんだなと感じた。
 - ・子供たちが元気がよく、反応もよく、熱心にむつみ製パンの方の話聞いている。
 - ・発表する友達の方をよく見ている。
 - ・講師が、授業内容に変化を持たせるため、画像を工夫して視線を集める仕掛けをつくっていた。
 - ・子供たちが帰宅後にこんなことを聞いてきたという話のネタになる資料があるとよかったのではないか。
- 外部人材の方が行う授業を、子供たちは家に帰ってどう親に話すのか。元々広沢にあったパン屋さんが出前授業をしてくれているということ、児童の親御さんたちにも知ってもらいたい。サンプルを持ってきて、発酵の話をしていた。実際にこれが子供から親に伝わるのであれば、学校が地域の人材を生かし、特色を持って教育活動をしているという実感がわいてくるのではないか。(佐々木委員)

2年4組

- ・元気のいいクラスである。自分の考えを発表するところと人の意見を聞く場面をしっかり分けていて立派だった。
 - ・大きな声で自分の意見を言っていて、よかった。
 - ・楽しみながらとても元気よく授業に取り組んでいる。
 - ・クロムブックを使って、その場で写真を取り、一人一人の撮った写真を使って計算させて様々なものに興味を持たせる授業が楽しそうだった。
- タブレットにすごく近づいている子がいた。昔はよく教科書は30センチ離してみると言われたが、姿勢とタブレットの距離について指導が必要。実際に目が見えてないことに気が付いていない児童かもしれない。(加藤委員)
- タブレットの操作は、もうみんな熟知しているのか(石田所長)
- かなりの頻度で活用している。(鈴木主幹)
- 低学年では、まず、人の話をしっかり聞く習慣を付けることが大事である。それが「かかわる力」につながる。(校長)

1年1組

- ・子供たちに気になるところを見付けさせて興味をもたせる工夫がされていて良い。
 - ・「ねえ、先生ー！」と子供たちが先生のことを好きなのが分かる。
 - ・「答えは一つだけではないよ！確認してごらん」と声掛け→確かめるくせがつく。良い！
 - ・友達がボードに書こうとするとき、書きやすいように支えてくれていました。よく気が付いて優しいなと思いました。
 - ・グループ内で他者を許容し共有しようとする関わり方。発言されるワードが現代っ子らしく、おもしろい。
- 今の1年生は何かコロナの影響を受けているか(憲幸委員)
- 自分のことが言えない、何度も手洗いをしたり、何度も繰り返し聞いてくる心配性の子も多くなっている。1年生に限らず、コロナの影響を受けているからこそ、コミュニケーション能力の育成が大切だと考え、指導にあたっている。(校長)

以上、子供同士のかかわり方、教師や外部人材とのかかわり方について参観していただき、その重要性や、保護者や地域としてどのように支援したらよいか等、熟議することができた。

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(3) 学校支援活動(クラブ活動)について

議長の指示により、教頭から、本年度の学校運営協議会の目標及び取組について説明があった。また、国立教育政策研究所の資料に基づき、クラブ活動の目的をみんなで共有し、クラブ活動へ地域の方に御協力いただくことで、クラブ活動の充実を図っていききたいとの説明があった。委員からは、以下の発言があった。

- 書道の作品募集等、宿題を兼ねている講座は大変人気がある。静岡大学や文化芸術大学浜松学院大学の学生さんにプログラミングや絵画の講座をお願いしたらどうか。例えばミニチュアのレプリカの個展をされている方はどうか。(石田所長)
- 学院大学の所にも出張ボランティアの張り紙があった。(川上委員)
- セキュリティ一面を考えると誰でもいいというわけにはいかないと思う。広沢につながるのある人に協力いただくのはどうか。(宮本委員)

地域の方が講師として実施しやすいクラブとして、料理クラブや外国語クラブ、ゲートボールクラブ等の意見があった。
協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

その他報告事項等

- ・主幹教諭より全国学力学習状況調査の結果について
- ・学校支援コーディネーターより広沢小コミュニティ・スクールの仕組みによる活動計画について

連絡事項

- ・司会より学校運営協議会自己評価表について
- ・次回、第4回運営協議会 令和6年2月19日（月）13：30から開放教室で開催するとの報告があった。